

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

私が暮らす地域の「かくー」宅横に樹齢80年を超える大山桜(オヤマザクラ)がある。4月中旬、この桜を楽しむ花見会に参加した。

吉沢豪俊さんの著書「森上区の歴史」では「かくー」は、昭和9年に初代塩島千代吉さんが創業。食料・衣料・小間物・学用品のたいいていの物が間に合うような大変大きな雑貨屋で、二代目吉蔵さんまで続いた。今も、大きな建物は当時の面影を残している。3本の大きな大山桜は、裏庭にあり、花見は私有地敷地でしかできないため特定の者しか参加する事ができない貴重な花見会だ。今年は、「早すぎる春」を象徴するよう例年より2週間以上早い開催だが、日差しは、春の温かさを十分に堪能させ

た。昭和40年代には、観光客が年々増加して森上が最も活気にあふれた時代。信濃森上駅には、年間10万人を超える乗降客数。一時は、村の中心地として栄えたが、国道が集落内か

ら付け替えられ、現在は静かな住宅街。しかし、地区内には、歴史を感じる場所も多くある事も事実だ。大山桜は、山桜に比べて花や葉が大きく、花色が淡紅色で華やかさもあ

り、花見会をいつも盛り上げてくれる。時折舞い落ちる花びらや隣接する当時の面影を忍ばせる大きな建物は、何時も何気なく見つめていく風景とは異なり格別なものに。ある車メーカーの宣伝に使われた「幸せが創り込まれた故郷も大

切だが、有りのままの故郷も見つめなくてはならない。それが歴史の営みだからだ。形あるものは、いずれその面影を失っていくのが歴史の事実だ。しかし、だからと言って何も

ない。地域にある歴史材を見つめ直す大切さを知るべきだ。その楽しみ方を模索する連続が、地域に大切な光を与える事だと信じた。その連続が、大きな投資を必要としない、地域活性化の起爆剤になってほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## 地域内の歴史文化財を活用して、地域を楽しむ事を考えてみませんか



集落内に生き続ける大山桜、先人が託した地域への夢はと考えると